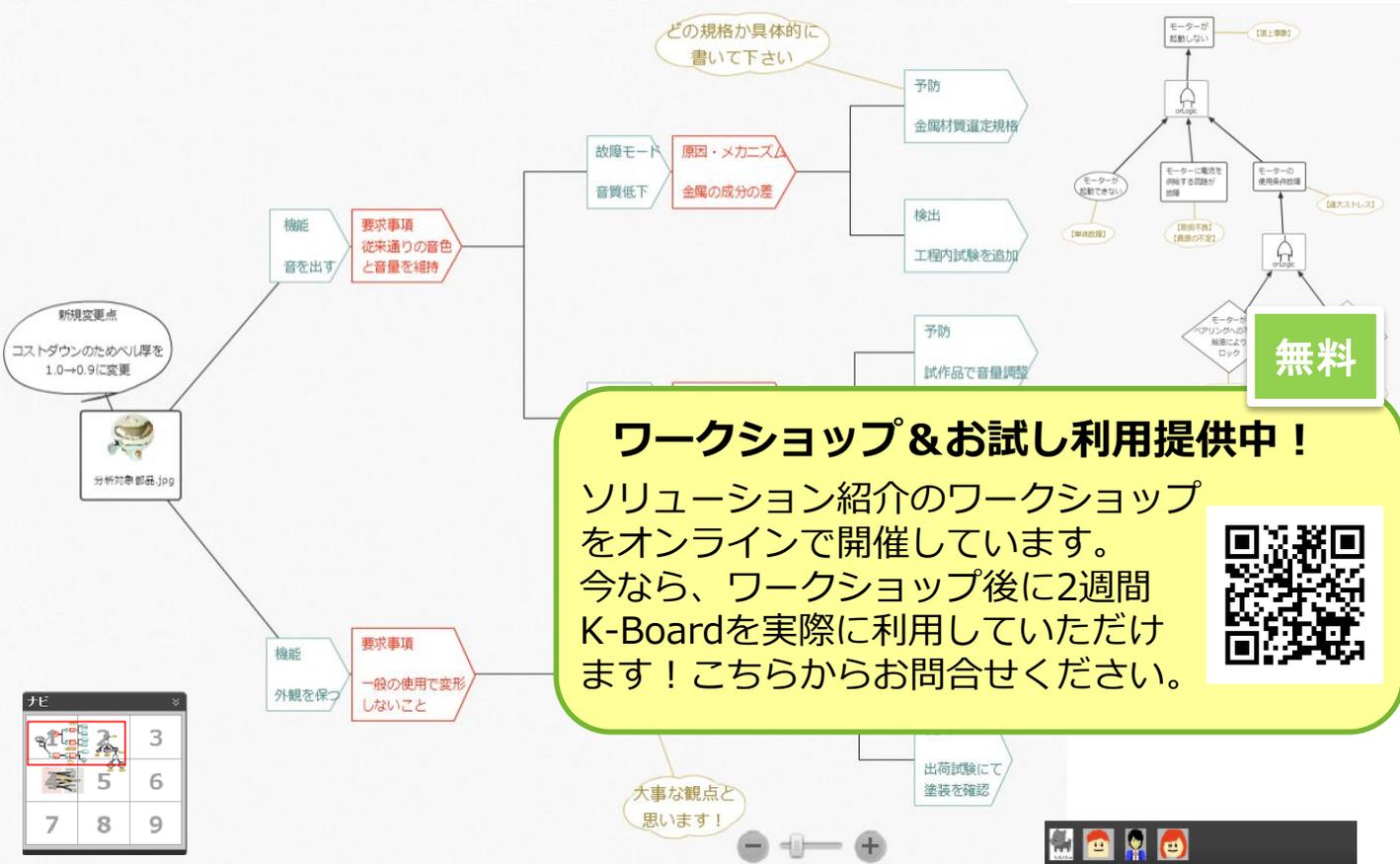


時間と場所の制限にしばられず現場のナレッジを整理共有

アクセラ

Accela K-Board



新型コロナウイルスの影響で…、

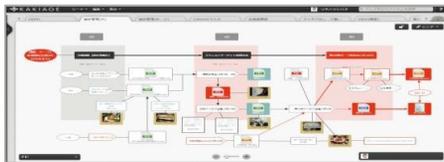
- 海外拠点責任者の帰国や、海外出張の取りやめが続く中、現地での意思決定の遅れやビジネス活動の停滞が懸念される
- テレワーク/時差出勤/Web会議を始めたが、皆が同時に見たり書いたりできるホワイトボード、模造紙、付箋に代わる柔軟なツールが欲しい

Accela K-Boardが解決します！

Accela K-Boardは、保存性、検索性、再利用性を実現した「クラウド上のホワイトボード」です。100人の参加者がPCあるいはタブレットから、同時に書き込み参照したりお互いの書き込みを関連づけることもできます。参加者は一ヶ所に集まる必要がなくなるばかりか、異なる時間に参照したりコメントし合えます。紙で共有したものを議事録にしたりPCに入力する手間も不要です。K-Boardは会議や働き方の概念を大きく生産的なものに変えていきます。

用途と効能

「左から右」へ貼るだけでプロセスを表現



検討
プロセス
の見える化

- ◆メールやSNS・チャットにない、圧倒的な「全体感」共有
- ◆全てがそこにまとまっている「安心感」と「効率性」実現

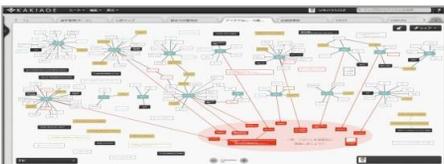
各国間や部門間タスクの状態が一目瞭然



会議
の改善

- ◆「時間や場所」を越える「タイムシフトディスカッション」実現
- ◆「色と配置」で議論の迷走を防ぎ、更新も常時共有

「模造紙にふせんを貼る」アナログ感覚



業務の現場
から気づきを
集積

- ◆集まれなくても、各自スキマ時間に「オンラインプレスト」
- ◆集まれたときは、投票上位のアイデアについて集中議論

イノベー
ション創出

新商材・新ビジネスを作り出す基盤化



- ◆異なる企業間での「セキュアな情報共有空間」に利用
- ◆世界的手法「ビジネスモデル・ジェネレーション」の実践

適用事例

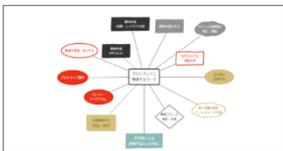
某自動車部品メーカー 様 部門横断型業務チームの場合

お困りごと：

海外との会議では、発言の背景や議論の流れが共有しづらく、時差もあり、なかなか効率化が進まなかった

- ・海外かつ多拠点型プロジェクトが増加・拡大する中で、メールやドキュメント交換、テレビ会議だけでは「文脈の理解・共有」が難しくなってきた
- ・母国語が異なるメンバーの発言内容を正確に記録・解釈・議事録化する負担が増してきたため、改善と共有・再活用の手法が必要だった
- ・事前のスケジュール調整や準備、当日の取りまとめや以降の共有・進捗管理など、役割分担においてリーダーの負担が大きくなっていった

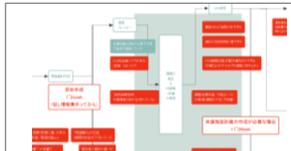
- ・ 遠隔でもリアルタイムにコメントを入力・関連付けできる
- ・ K-Boardに入力することで、「いつ・誰の」意見なのか、履歴が残る
- ・ 参加者全員で同時に書き込めるから、作業が分担できる



発散は事前に済ませ、集まって決めることは持ち越さずに「その場で」解決できる運用が可能に



入力者・入力日時が確認できるので、欠席者も含め議論の流れの共有・振り返りがスムーズに



リーダーに任せっきりでなく全員で作業分担することで、「当事者意識」も高める

成果・お客様の声：
テレビ会議を使いながらも全員の意見やアイデアがリアルタイムで視覚化できるようになった！

書記係ではなく、メンバー各自がコメントを入力することによりニュアンスの取り違え・齟齬が減った！

改善案を集約するリーダーの負担が軽減！会議拘束時間も減った！

某食品メーカー 様 研究部門の場合

お困りごと：

業務内の各種ワークが分断され、経緯の共有・状況の把握に多くの手間が発生、スピードや品質を上げづらい

- ・複雑で試行錯誤の多い複数業務をメンバーで分担し進めるため、各自の進捗や全体計画への影響がつかみづらく手戻りが発生しやすい
- ・調査ワーク→アイデア出し→企画化→作業の流れの中で、得られた経験・ノウハウの共有が難しく、そのための資料作成負担が増えていた
- ・中長期的なプロジェクトでは関係者の入れ替りも多く、過去の経緯や実行済みタスクの共有の必要性が高まっていた

- ・ 「左に目的、右に結果、その間に進捗」という簡単なルールで、業務全体を見える化
- ・ 日々の活動内容や気づきを「ふせんを模造紙に貼る」ように簡単登録、自然と蓄積
- ・ オンライン上の「自由な共有空間」として各自のスキマ時間を有効に活用



左から右に「計画・進捗・関連資料・コメント記述・登録」と画面が配列され、行動や議論・思考の流れが把握でき、背景や全体感が読み取りやすい



各自の予定調整の必要なく「アイデア・オンラインプレスト会議」を開催。投票機能も使いながら「本当に集まって議論すべきポイント」が見極められる



各活動やテーマ単位に「ボード」を作成。日々、メンバーは活動報告や気づき・アイデアをコメントとして登録・関連付けするだけで「自由な知の集積ボード」が完成

成果・お客様の声：
日々、リアルタイムに活動と成果を共有できるようになった！

テーマ/分野別の「知の集積」が実現可能になった！

新製品アイデア/企画の量が増え質を高めるスピードがアップした！